

2025 年度前・後期 授業改善アンケート集計結果に対するコメント

—経済学部—

学部長 大津 武

2025 年度の経済学部における授業改善アンケートは、アンケート実施対象である 610 科目の内 509 科目 (83%)、実施必須 436 科目の内 421 科目 (97%) で実施された。延べ回答者数は前後期合わせて 12,906 人 (延べ履修者数 24,727 の 52%) であり、前年度比 62 人減となっている。

表 1 に示されたアンケート結果より、5 点満点の内平均 4 ポイントを超える高いポイントとなっていることから、学生は学修を通じて学問的興味・関心を持ち、学修活動が有意義であったと判断していることがうかがえる。過年度に比べて微増となっており、本学部のカリキュラムが一定の成果を収めていると評価できる。

表 1：学修効果

設問	項 目	学期	2023年度	2024年度	2025年度
12	この分野への興味・関心が引き起こされた	前期	4.05	4.08	4.16
		後期	4.12	4.15	4.19
14	この授業は総合的に判断して自分にとって有意義だった	前期	4.19	4.22	4.31
		後期	4.24	4.28	4.31
	延べ回答者数 (人)	前期	6,886	7,237	7,082
		後期	5,779	5,731	5,824

表 2 には、教員の取組に対する学生の評価ポイントがまとめられている。全ての項目について、ポイントは昨年度と同様、又は上昇傾向にある。また、4 ポイントを上回る高いポイントとなっており、過年度より引き続き、教員が前期・後期を通じて授業を適切に実施しているものと評価できる。

表 2：教員の取組

設問	項 目	学期	2023年度	2024年度	2025年度
3	教員は休講や遅刻をすることなく授業を行っていた	前期	4.46	4.50	4.50
		後期	4.46	4.45	4.47
4	シラバスと授業の内容は一致していた	前期	4.46	4.52	4.53
		後期	4.48	4.49	4.50
5	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	前期	4.25	4.34	4.39
		後期	4.30	4.39	4.41
6	教員は教室内が学習にふさわしい状態（私語等対応）に保たれているよう心掛けた	前期	4.38	4.45	4.51
		後期	4.41	4.45	4.50
7	教員の板書・授業資料は見やすかった	前期	4.20	4.27	4.35
		後期	4.28	4.33	4.35
8	教員は発言・議論等授業参加を積極的に促していた	前期	3.99	4.06	4.10
		後期	4.09	4.14	4.16
9	教員は質問への回答や課題の返却・解説等を十分にしていた	前期	4.25	4.29	4.35
		後期	4.29	4.33	4.36

表3に示された設問「1」の集計結果から、学生は全15回の講義回数内、欠席は平均的に2回以下であることがうかがえる。また、授業理解のための努力（設問「2」）にも取り組んでいると考えられる。設問「10」については、2024年度のアンケートより選択肢の記述が変更されたため注意を要するが、学生は概ね課題の量は適量であったと考えていると判断できる。一方、設問「11」の集計結果より、授業1回あたりの授業時間外の自修時間は微増傾向とはいえ1.5時間未満に留まっている。

この点に関連して、表4には、設問「10」と「11」の回答結果の分布が示されている。課題量が「少ない」又は「とても少ない」と回答した学生が3%未満であるのに対して、授業時間外にほとんど自修をしていない学生は10%以上となっていることから、一部の学生は自修の習慣が身についていない可能性がうかがわれる。また、課題量が適量と回答した学生が75%程度であり、「とても多い」又は「多い」と回答した学生を合わせると、97%程度の学生にとって課題量は不足していないが、90%程度の学生は自修時間を1.5時間未満と回答している。このことは、課題量が学生の自修活動に繋がっていない、又は、学生が考える自修の適量が授業1回あたり1.5時間未満であるとの解釈が可能である。

自学自習は大学における学びにとっても重要な要素であるため、今後も学生により活発な自修活動を促すとともに、その重要性を伝えていくことが必要である。

表3：学生の取組姿勢

設問	項 目	学期	2023年度	2024年度	2025年度
1	この授業に欠席した回数は次のようである（※1） ⑤7回以上 ④6～5回 ③4～3回 ②2～1回 ①0回	前期	4.24	4.24	4.23
		後期	4.16	4.13	4.07
2	この授業の内容を理解するために努力した	前期	4.21	4.31	4.36
		後期	4.25	4.31	4.33
10	授業の課題は適量であった（※2） ⑤とても多い ④多い ③適量 ②少ない ①とても少ない	前期	4.12	4.19	4.32
		後期	4.19	4.28	4.42
11	1回分の授業にあたり、授業時間外の事前・事後学習のために費やした平均の時間（h）は次のようである ⑤1.5h以上 ④1～1.5h未満 ③0.5～1h未満 ②0.5h未満 ①ほとんどしていない	前期	2.96	2.99	3.00
		後期	3.02	3.03	3.02

※1 設問1の各選択肢の得点は、反転して1→2→3→4→5で設定している。

※2 2024年度の設問10の各選択肢の得点は、1→3→5→3→1で設定している。2023年度は①～⑤の選択肢は明示されていない。

表4：学生の学修取組分布（2025年度）

設問	項 目	学期	平均値	上段：回答数(人), 下段：回答率(%)				
				5	4	3	2	1
10	授業の課題は適量であった ⑤とても多い ④多い ③適量 ②少ない ①とても少ない	前期	4.32	493	1,045	5,022	99	82
				7.3	15.5	74.5	1.5	1.2
		後期	4.42	331	767	4,350	78	56
				5.9	13.7	77.9	1.4	1.0
11	1回分の授業にあたり、授業時間外の事前・事後学習のために費やした平均の時間（h）は次のようである ⑤1.5h以上 ④1～1.5h未満 ③0.5～1h未満 ②0.5h未満 ①ほとんどしていない	前期	3.00	663	1,373	2,751	1,222	751
				9.8	20.3	40.7	18.1	11.1
		後期	3.02	558	1,161	2,342	926	607
				10.0	20.8	41.9	16.6	10.9

最後に、表5は本学の教育系センター科目を履修した**経済学部生からの回答のみを抽出**したものである。経済学部では教育系センター科目の修得単位数は自由設計科目として38単位まで卒業単位に算入される。ただし、学部の専門科目に比べ履修者が少なく、従って、アンケート回答数が少ないため、アンケート結果の解釈には注意を要する。

設問「12」と設問「14」の回答結果は、経済学部の学生は、教育系センター科目が学問分野への興味・関心を引き起こし、自身にとって有意義であると判断していることを示唆している。従って、自由設計科目は学生の主体的な学びを実現させるために一定の役割を果たしていると思われる。また、学生は課題量についても適量（設問「10」）であると考えていることがうかがわれ、とりわけデータサイエンス教育研究センターの科目については、専門科目を含む他の科目に比べて授業時間外の学習を促す可能性（設問「11」）が示されていることから、学生の自学自習への一定の寄与が認められる。

表5：教育系センター科目の学修：学生の取組と効果

設問	項 目	センター	共通教育		データサイエンス		国際		キャリア	
		学期	2024年度	2025年度	2024年度	2025年度	2024年度	2025年度	2024年度	2025年度
10	授業の課題は適量であった ⑤とても多い ④多い ③適量 ②少ない ①とても少ない	前期	4.30	4.43	4.01	4.21	3.93	4.68	3.88	3.82
		後期	4.39	4.44	4.60	4.36	4.56	4.76	4.33	4.28
11	1回分の授業にあたり、授業時間外の事前・事後学習のために費やした平均の時間（h）は次のようである ⑤1.5h以上 ④1～1.5h未満 ③0.5～1h未満 ②0.5h未満 ①ほとんどしていない	前期	2.40	2.43	3.22	3.37	2.89	2.71	2.51	2.86
		後期	2.59	2.57	3.54	3.15	3.22	1.96	3.06	2.67
12	この分野への興味・関心が引き起こされた	前期	4.13	4.22	4.27	4.33	4.68	4.55	4.64	4.54
		後期	4.29	4.33	4.33	4.27	4.78	4.56	4.19	4.40
14	この授業は総合的に判断して自分にとって有意義だった	前期	4.37	4.37	4.42	4.36	4.79	4.70	4.69	4.69
		後期	4.38	4.44	4.40	4.45	4.78	4.68	4.78	4.61
	延べ回答者数（人）	前期	1,024	1,211	131	135	28	31	59	78
		後期	891	1,110	86	154	9	25	36	47